



看護栄養学部 看護学科

学生の声

学ぶ意欲をあきらめない

羽ばたく日を夢見て

「好き」を信じて



みんなが安心して暮らせる 地域のために

私は、地域に根差した医療を学びたいと考え本校を志望しました。私の育った鳥取は高齢化率が高く、高齢者が健康を維持するために多くの課題があります。看護の技術とともに、地域に密着した医療、多職種の方との連携も学び、みんなが安心して暮らせる看護士を目指し、4年間頑張ります。

原田 凜さん(1年)
鳥取県立鳥取高等学校出身



理想の看護師になるために

私は将来、生まれ育った島根県で医療従事者として貢献したいと考えています。本学は、地域体験型の学習が多くあるために、地域の方と関わりながら看護への学びを深めることができます。この学校での学びを活かして、看護師として地域に貢献できるよう努力したいです。

齋藤 花さん(1年)
島根県立益田高等学校出身



4年後の自分は こうありたい

私は、患者さんやそのご家族の方に寄り添った看護を行える看護師になりたいと考えています。そのためには知識や技術はもちろん相手の立場に立って親身に話を聞くことが必要です。島根県立大学での4年間でたくさんの方と積極的にかわりコミュニケーションを取り、勉学に励んで行きたいです。

上田 里歩さん(1年)
島根県立津和野高等学校出身



地域に求められる 訪問看護師を目指して

私は将来、地元で貢献し地域の方々に求められる訪問看護師を目指しています。中山間地域や近隣家庭に訪れる学習や実習の中で、地域の方々のコミュニケーションや多くの知識を学んでいきたいです。そして4年間で得た知識を地域に貢献できるよう、充実した学生生活を送りたいです。

朝山 朋夏さん(1年)
島根県立安来高等学校出身



地域の未来を繋げる 初めの一歩

私は将来、島根で地域の患者さんに寄り添い、医療が誰にとっても身近な存在となるようにしていきたいと考えています。実際に地域の方と関わり、島根の医療について深く学んでいきたいです。

河田 桜弥さん(1年)
島根県立島根中央高等学校出身



人間力を高める 島根県立大学で過ごす 4年間

私は地域医療に貢献できる看護師を目指したいと考えています。島根県立大学では島根県の各地域への滞在型によるフィールド学習を行えるので、その実習の中で大学の人とだけでなく、さまざまな人とかわりを持ち、人間力を高める4年間にしたいです。

池田 夏葵さん(1年)
私立近畿大学附属高等学校出身(大阪府)

島根県立大学で 身につけたいこと

私は将来大きい病院で経験を積んだ後、訪問看護師になりたいと思っています。島根県立大学でチーム医療や在宅医療を学び地域や他職種と連携する力や自主的に行動できる力を身につけたいです。

山本 颯太さん(1年)
山口県立山口中央高等学校出身

故郷に 貢献するために

地域との結びつきを感じられる出雲キャンパスで、人間性を育み、豊かな感性を持ちたいと考えています。そして、人と触れ合いながら経験を積み、自信を持って看護を提供できるようにしたいです。学びを活かし、少子高齢化が進む故郷の医療が少しでも明るいものになるような看護で貢献したいと考えます。

高井 彩さん(2年)
島根県立隠岐高等学校出身

島根県立大学で 経験できること

私は、自身の出身地である山陰地方で、地域に寄り添った看護を学ぶために島根県立大学へ進学しました。基礎看護学実習(家庭)では、実際に地域の方のご自宅で生の声を聞き、看護学生という立場から質の高い生活が送れるようにアドバイスをしました。また在宅ボランティアサークルに所属し、講義以外でも地域の方と交流し学びを深めることができました。

井上 賢典さん(3年)
兵庫県立豊岡高等学校出身

私の目指す看護

私は患者さんやその家族の一番身近な存在として、些細なことでも言えるような雰囲気作りを大切に、また、疾患と闘いながらも、できる限り自分らしい生活を送れるよう一人一人の患者さんの声に耳を傾けることのできる看護師になりたいです。そして、心の拠り所にしてもらえるような関係を築きたいと思っています。

槇原 千絵さん(4年)
島根県立大社高等学校出身

卒業生の声

堀江 斐子さん

島根県立中央病院勤務(看護師)



私が島根県立中央病院を志望した理由は、大学入学当初から地元での就職を希望しており、地元へ貢献したいという気持ちが強かったことです。また、学生時代からこの病院で実習することが多く、病棟の雰囲気や様子が分かっていたため、この病院を志望しました。実際に働き始めて初めて気づくことや得る技術も多いですが、人体構造や機能、看護技術などは在学中に学んだことが基礎となっていると改めて感じています。疾患による後遺症により、入院前の生活を送ることが難しい患者さんも多いですが、疾患を抱えながら"地域で生活する人"という意識を持ち、他職種と協力して一人一人の患者さんに合わせた看護を展開していくことにやりがいを感じています。

田邊 真伊さん

鹿児島県名瀬保健所勤務(保健師)



私は、鹿児島県の奄美大島にある名瀬保健所で小児慢性特定疾病児の支援や母子保健に携わっています。コロナ禍での活動に難しさを感じていますが、関係機関とつながり、同じ目標に向かって活動できることにやりがいを感じています。また、住民の方からの相談も増え、島の人々の支えになれることも喜びを感じています。大学時代のような地域での演習や実習を通して、「生活者の視点」を養えたことは、私の財産です。特に、2年次の科目「島根の地域医療」のフィールド学習では、島で暮らし続けたい住民の思いに寄り添いながら活動しておられた海士町の保健師の方が印象的でした。故郷の鹿児島でも、島の公衆衛生に携わりたいと思い、奄美大島への勤務を希望しました。大学の仲間には今でも相談にのってもらっています。出会えたことに感謝しています。奄美大島は、気候も人も温かな素敵な島です。ぜひ、訪れてみてください。

井塚 景子さん

浜田医療センター(助産師)



私は、生まれ育った島根県内でハイリスク症例を学びながら正常分娩に多く関わりたいと思い、浜田医療センターで働き、現在2年目になります。当院は、年間400件前後の分娩件数があります。1年目より積極的に分娩介助に関わらせていただき、現在私は30例の経験を重ね、アセスメント能力が高まったと実感しています。また、混合病棟であり、助産技術だけでなく、看護師として産科以外の技術や知識の向上にも繋がっています。学生時の実習から変わらずお世話になっている先輩方や先生方の手厚いご指導のもと、相談しやすい環境で学ぶことができている。元気に退院されるお母さんと赤ちゃんの笑顔にやりがいを感じ日々楽しく働くことができます。皆さんと一緒に働くことを楽しみにしています。